

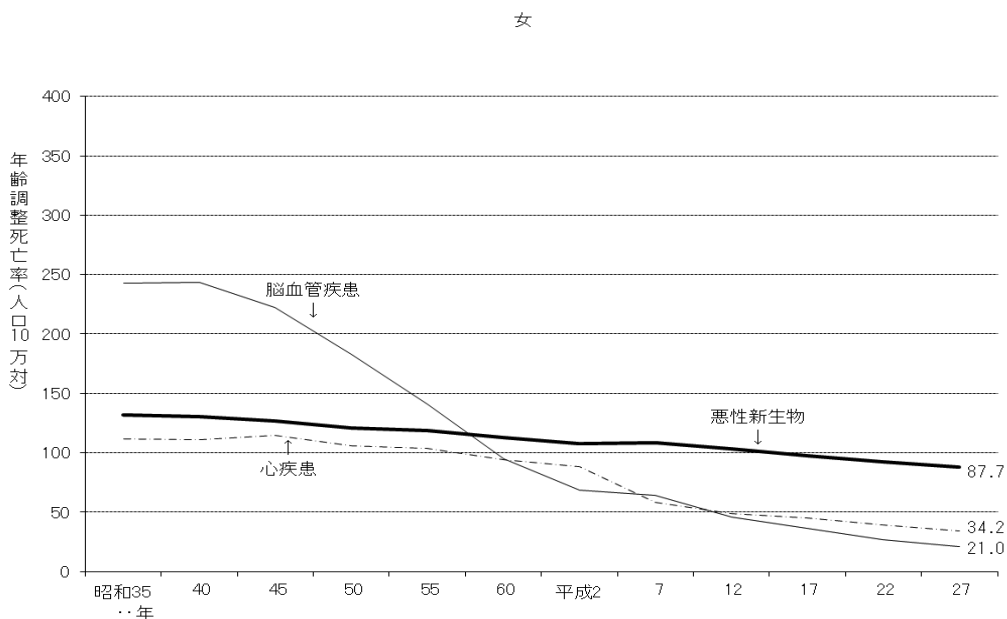
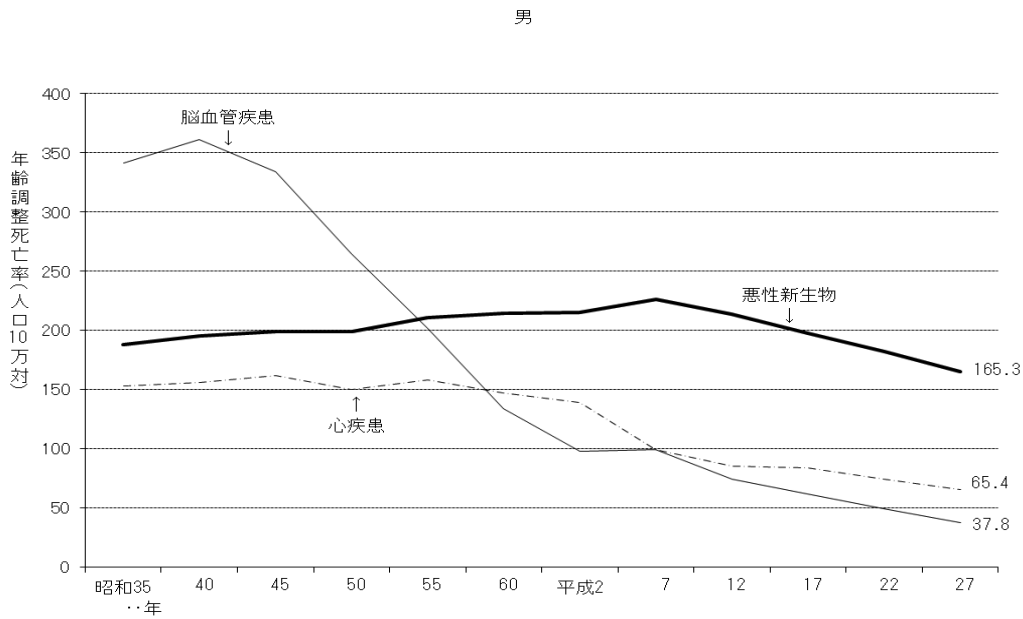
3. 三大死因(悪性新生物、心疾患、脳血管疾患)による死亡の状況

○全国の三大死因による死亡の状況の年次推移

平成 27 年の年齢調整死亡率をみると、悪性新生物は男 165.3、女 87.7、心疾患は男 65.4、女 34.2、脳血管疾患は男 37.8、女 21.0 となっている。

平成 7 年の死因分類改訂後(第 10 回改訂国際疾病傷害死因分類(ICD-10))の同年の年齢調整死亡率と比較すると、悪性新生物の男では 60.8 ポイント、女では 20.6 ポイント、心疾患の男では 34.3 ポイント、女では 24.2 ポイント、脳血管疾患の男では 61.5 ポイント、女では 43.0 ポイント低下している。(図6-1)

図6-1 三大死因の年齢調整死亡率の年次推移



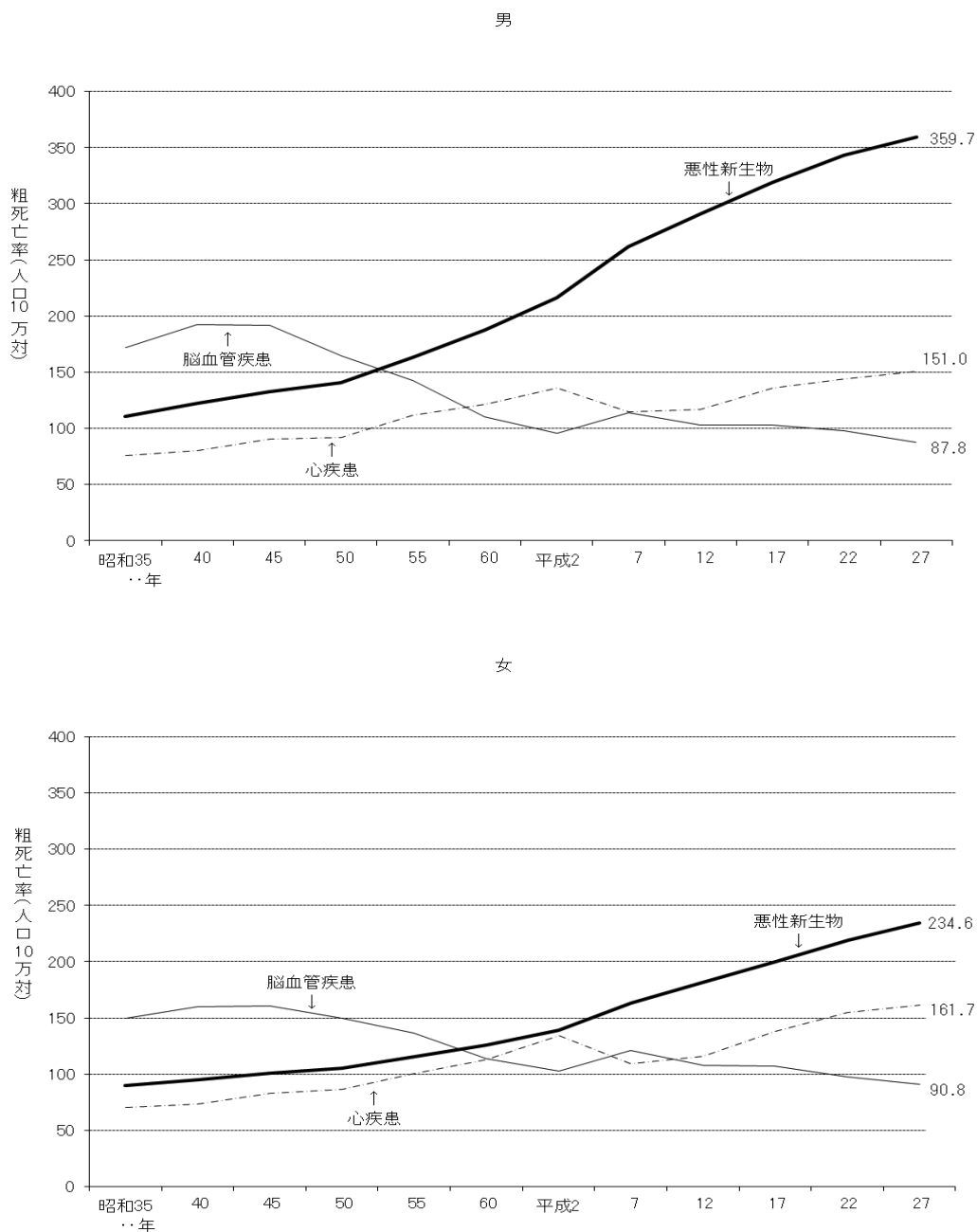
注:平成2年から7年にかけての心疾患の低下は、新しい死亡診断書(死体検案書)(平成7年1月1日施行)における「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの周知の影響によるものと考えられる。

平成 27 年の粗死亡率をみると、悪性新生物は男 359.7、女 234.6、心疾患は男 151.0、女 161.7、脳血管疾患は男 87.8、女 90.8 となっている。

平成 7 年の死因分類改訂後(第 10 回改訂国際疾病傷害死因分類(ICD-10))の同年の粗死亡率と比較すると、悪性新生物の男では 97.7 ポイント、女では 71.5 ポイント、心疾患の男では 36.6 ポイント、女では 52.1 ポイント上昇しているが、脳血管疾患の男では 26.4 ポイント、女では 30.6 ポイント低下している。

年齢調整死亡率が低下しているのに対して、粗死亡率が上昇しているのは高齢化の影響による。(図6-2)

図6-2 三大死因の粗死亡率の年次推移



注:平成2年から7年にかけての心疾患の低下は、新しい死亡診断書(死体検案書)(平成7年1月1日施行)における「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの周知の影響によるものと考えられる。